

資料室便り

交通経済研究所資料室

■新着書棚から（新しく受け入れた資料の紹介）

『文化の力、都市の未来

——人のつながりと社会システム』

森記念財団都市と文化・クリエイティブ産業研究
委員会編著／鹿島出版会発行／2023年2月／B5
判／220ページ／2,750円（税込）

東京のこれから、都市のこれからを見据えたときに、都市のなかで起こるクリエイティブな活動とそれを促す空間はもはや欠かせない。本書は、都市と文化の関わりに着目し、ロンドンやニューヨークの第一線で活躍する有識者へのインタビューを通して、都市における文化の将来性や発展性を明らかにしている。そして、日本でもっとも大きな課題とされている、芸術文化を育てる社会システムをどのように構築するかについて検討を加えたうえで、これらが生み出す文化芸術の未来に向けた都市のあり方を展望する。 原□

■書庫のなかから（所蔵資料の紹介）

『上野駅史

——上野駅開駅五十年記念』

上野駅互助団／1932年

わが国初の民営鉄道である日本鉄道上野～熊谷間が開業してから、本年で140年を迎える。本書は、上野駅開業50周年を記念して刊行された。東京の北のターミナルである上野駅について、日本鉄道時代から鉄道国有化後までを記した駅史である。本文200ページに加えて、施設や職員の写真187枚も掲載されている。駅長が記した序

文からは刊行に至るまでの苦労、とくに関東大震災により所蔵資料がすべて焼失してしまったことへの悔しさが読み取れる。資料収集にあたっては、日本鉄道時代のOBへの聞き取り、鉄道省図書館、上野の帝国図書館（現・国際子ども図書館）、帝国鉄道協会（現・日本交通協会）など外部からの協力も仰いでいる。資料室では、このような駅史にかかわる文献も所蔵している。 土方□

■新着情報（2023年5月分）

- 1 交通政策入門【第3版】 衛藤卓也、大井尚司、後藤孝夫編、朝日亮太、板谷和也、西藤真一、酒井裕規、鈴木裕介 同文館出版 2023年4月
- 2 交通崩壊 市川嘉一 新潮社 2023年5月
- 3 SDGs時代の地方都市圏の交通まちづくり 辻本勝久 学芸出版社 2023年3月

→続きの情報はホームページで

*上記以外の新着図書や新着雑誌につきましては、ホームページをご覧ください。キーワードによる蔵書検索も可能です。併せて月別の「新着図書目録」も掲載しています。



■資料室からのご案内

資料室の最寄駅であるJR上野駅は、7月28日で開業140年を迎えます。「書庫のなかから（所蔵資料の紹介）」でもお伝えしましたように、資料室では上野駅に関係する図書を所蔵しています。『上野駅100年史』（日本国有鉄道上野駅、1983年）、『上野駅改良工事概要』（鉄道省東京第一改良事務所、1932年）、『鉄道と街・上野駅』（大正出版、1985年）などなど。また、『鉄道ピクトリアル』、『鉄道ジャーナル』、『鉄道ファン』などの雑誌にも上野駅に関する記事が掲載されています。ぜひお越しいただき手に取ってご覧ください。

担当：土方規義 古森崇史 原祥太 田邊由佳